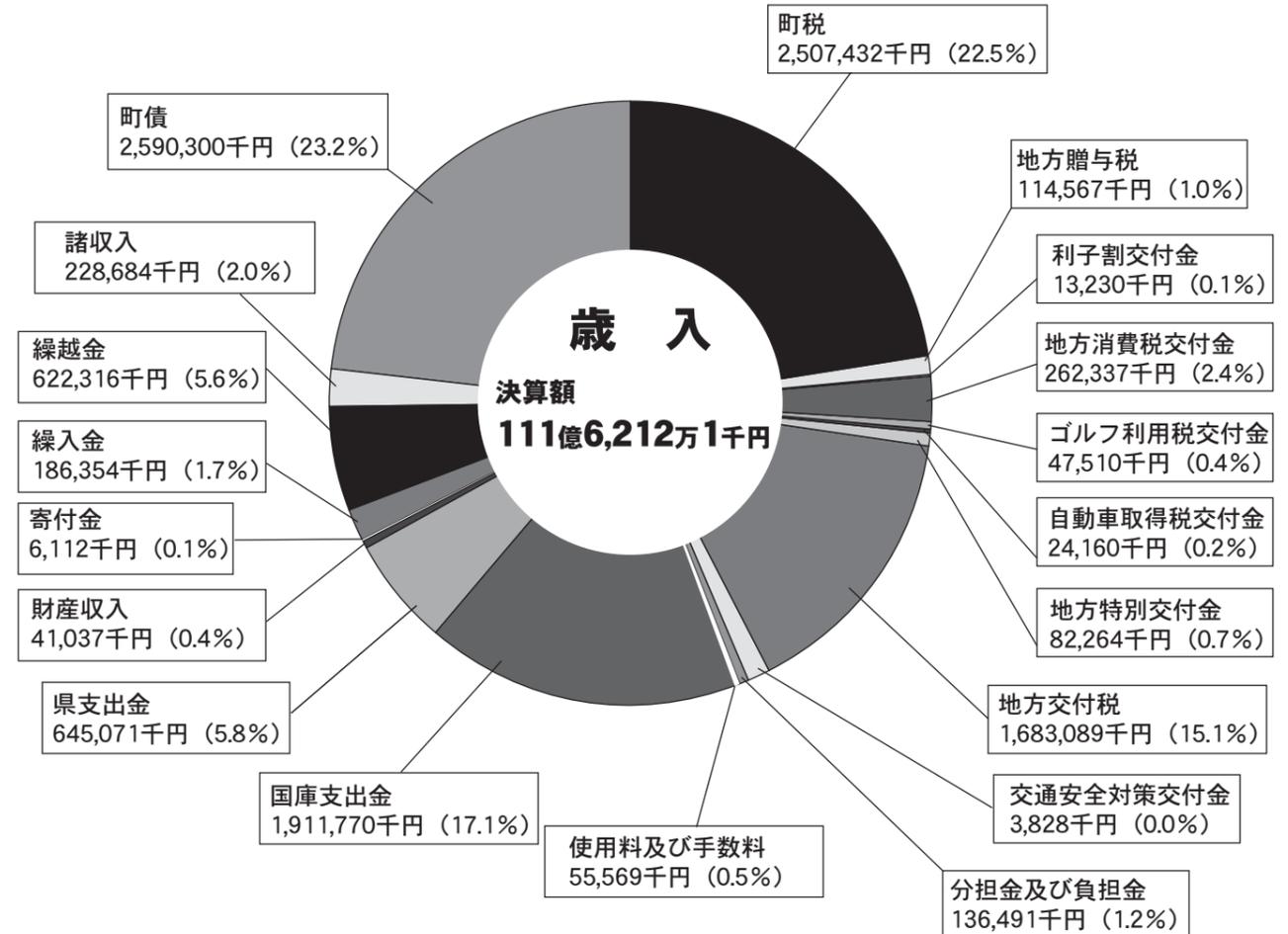
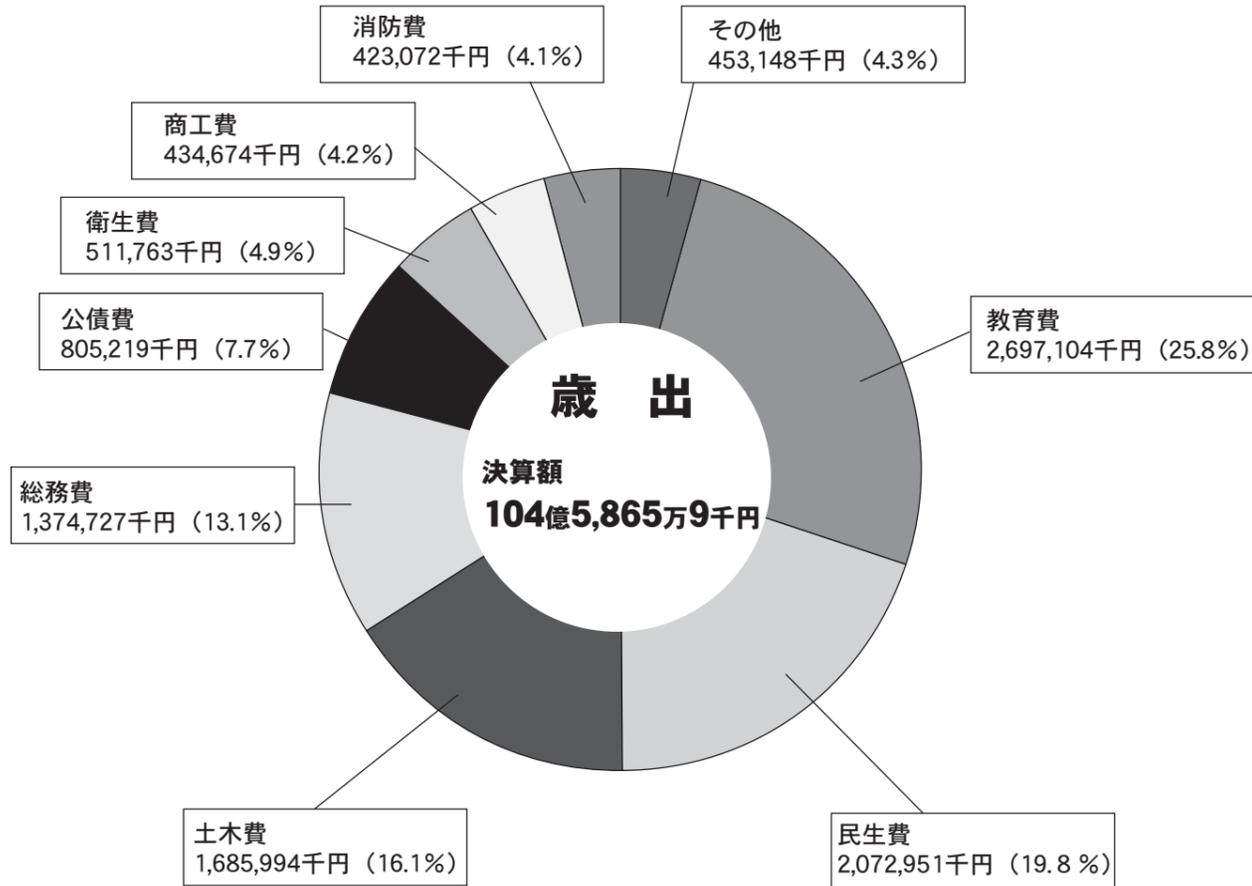


平成15年度

歳出決算額
104億5,865万9千円

一般会計 決算認定

歳入決算額
111億6,212万1千円



歳出審査に対する議会の意見

- ・歳出決算額は支出済額104億5,865万9千円、翌年度繰越額13億3,636万4千円、不用額は1億9,230万8千円になっている
- ・支出の中で一番多いのは教育費であり全体の約26%、そのうち図書館費が11億147万円で教育費の約40%を占めています。これに民生費と土木費、総務費を加えた4つの経費で全歳出の75%になります。
- ・翌年度繰越額の主なものは、土木費7億9,828万6千円、教育費5億3,507万8千円となっています。
- ・繰越の主な内容は、土木費の都市計画事業と道路整備事業における、用地購入が難航し工事発注の遅れが要因となっている。

歳入審査に対する議会の意見

- ・平成15年度の歳入決算額は、収入済額111億6,212万円、不納欠損額2,075万7千円、収入未済額9億310万4千円である
- ・収入済額は対前年度増加額16億4,626万6千円 (17.3%増)
- ・収入済額のうち、自主財源は、37億8,399万5千円 (34%) であり、依存財源は、73億7,812万7千円 (66%) である
- ・自主財源の総額に占める町税収入の割合は66%である
- ・依存財源は対前年度13億9,008万円の増加となっている
これは国庫支出金4億8,945万9千円の増加、町債の12億9,200万円の増加と地方交付税が4億1,295万6千円の減少等による

平成15年度土地区画整理事業特別会計

歳入=決算額3億4,611万2千円
歳出=決算額2億4,842万2千円

歳入決算額は3億4,611万2千円で歳出決算額は2億4,842万2千円で差引残額は9,769万円である。15年度の予算で見込んでいた保留地の処分がなく補償工事等も執行出来ない状態である。整備面3カ所、地権者7名、未整備部分もあり、強力な進行を求めた。保留地の処分は単価の見直しを含めて早期の販売対策が必要である。



平成15年公共下水道事業特別会計

歳入=決算額6億8,315万1千円
歳出=決算額6億7,765万4千円

歳入決算額は6億8,315万1千円で、歳出決算額は6億7,765万4千円となった。差引残額は549万7千円である。公共下水道事業は計画面積に対する供用開始面積比は12%で前年度より5.8%ポイントの増加、使用料が前年度より大幅な増となった。これは大口使用者が貢献している。

接続可能世帯数1,131世帯の内279世帯が接続済で普及率25%である。今後は専門職員の配置も検討し下水道の知識と目的を十分にPRをする必要がある。



平成15年度水道事業会計

収益的収入=8億5,405万4千円
収益的支出=8億2,653万

本年度の経常利益が2,768万円で前年度の998万9千円より1,769万1千円増加している。配水量においては有収率が95.02%と14年度より微増だが給水量も増加した。

これは大口使用者の増加と給水人口の増、更には有収率の上昇も大きな要因となっている。経営状況はおおむね良好であるが、さらに有収率のアップのため、漏水対策に力を入れ、老朽管の改良布設工事が重要である。



平成15年度

特別会計決算認定

国民健康保険

歳入=25億7,168万7千円
歳出=25億6,501万9千円

現年度一般分は91.8%となり、平成16年度はペナルティーが課される。滞納発生額は前年度より増加しているが、期限内収納率は53.5%である。収納率対策特別徴収員6人による納税相談や督促等により、徴収効果を上げていたが、次年度は財政調整交付金減額のペナルティーが課されるので、なお一層の徴収率アップに努力するよう求めた。歳出については療養給付額は前年度の11.3%に増額しているがこれは平成14年度が11カ月分の決算であったための差である。高額療養費は前年度の106.5%に増加している。



老人保健

歳入=17億4786万6千円
歳出=17億6156万6千円

歳入歳出残額△1,370万円は翌年度歳入繰越充用されている。歳出額のうち医療給付費は17億2,571万円で支出済額の98.0%を占めている。不用額は1,158万2千円になっている。これは当初見込みより実績が伴わなかったことによるものである。老人人口の増加により伸び続けると予想される医療費に関して、いいあんべ事業や住民検診健康指導事業等を活用し、各課連携により普段からの健康に関する意識の高揚と啓蒙を図り医療費の抑制や多受診がないか。厳密なレセプト点検にも努めてもらうよう要望した。



介護保険

歳入=10億9,551万7千円
歳出=10億6,312万7千円

歳入については第1号被保険者、保険料の徴収状況に関しては100%の徴収率である。普通徴収分は現年度調定額が4,365万5千円のうち、収入済額3,424万8千円収入未済額940万8千円で徴収率78.5%と前年度を下まわっている。全体としても徴収率は92%であり、年次的に過年度滞納分も増加傾向にあることから、さらに徴収率の向上に努めることを求めた。

